

\*\*2014年 1月改訂 第7版  
\*2005年 10月改訂  
薬効分類 漢方製剤

34

日本標準商品分類番号875200  
承認番号等  
(61AMY)0408 (薬価基準収載)  
薬価収載 1986.10 販売開始 1986.12

ケイ シ ブクリョウガンリョウ  
〔東洋〕桂枝茯苓丸料 エキス細粒

\*\*【組成】

本剤は、桂枝茯苓丸料の水製エキスに賦形剤(トウモロコシデンプン)を加えて製したものである。

本剤6.0g中

局外生規ケイシ・・・4.0g 日局トウニン・・・4.0g

日局ブクリョウ・・・4.0g 日局シャクヤク・・・4.0g

日局ボタンピ・・・4.0g

上記の混合生薬より抽出した桂枝茯苓丸料の水製エキス3.6gを含有する。

【性状】

本品は、褐色の細粒で特異なおいと味を有する。(天然原料を使用するため、色調、味、においがロットにより若干異なることがあります。)

医薬品識別コード: TY-034

【効能・効果】

比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴える次の諸症:

月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身(打撲症)、しもやけ、しみ

【用法・用量】

通常 大人 1日 3回 1回 2.0g(1包)を空腹時経口投与  
年齢症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- 1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 2) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用

肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 $\gamma$ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

\*2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、そう痒等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。  
[本剤に含まれるトウニン、ボタンピにより流産の危険性がある]

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【取扱い上の注意】

薬の品質を保つため、直射日光を避け、できるだけ湿気の少ない涼しいところに保管してください。

【包装】

500g, 2.0g×252包(分包品)

【参考】

原典: 金匱要略

参考文献: 「臨床応用漢方処方解説」矢数道明著

「実用漢方療法—現代医学の盲点をつく」藤平健著

「漢方の診かた治しかた」寺師陸宗著

「漢方診療医典」大塚敬節・矢数道明・清水藤太郎共著

「漢方処方応用の実際」山田光胤著

「経験漢方処方分量集」大塚敬節・矢数道明監修

「診療の実際」大塚敬節・矢数道明・清水藤太郎共著

「症候による漢方治療の実際」大塚敬節著

\*\*【文献請求先】

製造販売元 株式会社 東洋薬行

〒113-0033 東京都文京区本郷6-19-7

TEL 03-3813-2263 FAX 03-3813-0202

株式会社東洋薬行

東京都文京区本郷6-19-7

(改訂7TP)